

第3分科会「教育環境設備に関する課題」

(報告者) 松江市教頭会・安来市教頭会所属

地域の力を生かす学校環境づくり

ー社会に開かれた教育課程の実現を目指してー

富山県射水市教頭会 射水市立大門中学校 竹内 文恵

○発表の概要

[研究のねらい]

これまでの学校と地域との連携で得られたことを明らかにするとともに、学校運営協議会を組織することで始まった新たな取組みの成果と課題を検証し、社会に開かれた教育課程の実現に向けて教頭が担うべき役割を探る。

[研究の概要]

- (1)地域人材の活用 ①学習支援 ②安全確保 ③学校環境整備 ④防災教育
(2)教頭の役割 ①学校支援コーディネーターとの関わり ②市教育委員会との関わり

[成果と課題]

- (1)成果 ①地域の活性化 ②地域のよさを知る
③本物から学ぶことで得られること ④地域における学校への理解
(2)課題 ①地域の高齢化と人材確保 ②持続可能な取組にするための組織の構築

○質疑及び協議

学校運営協議会を参画型にするためには人選が重要。地域の高齢化や少子化に伴い人材の確保が難しい現状はあるが、学校と地域の役割分担を明確化し、持続可能な組織を構築する必要がある。

地域の力を生かした教育活動の充実を目指して

ー学校支援本部とのさらなる協働に向けての副校長の役割ー

東京都杉並区副校長会 杉並区立杉並第一小学校 小島 昭博

○発表の概要

[研究のねらい]

学校と学校支援本部が行う活動や互いの関係性について現状と課題を明らかにし、地域の力を生かした教育活動の充実を図る。

- ・地域の主体性が発揮された有益な活動を共有することで自校の取組に生かす。
- ・明らかになった課題を解決するために副校長としてどういった関わりができるかを検討する。

[研究の概要]

- (1)研究の進め方 ①課題の洗い出しと区分ごとの協議 ②全体共有と課題の追求
(2)現状把握、共有

事例Ⅰ 朝自習の監督を地域の方や学校運営協議会委員に依頼する

＜副校長の役割＞ ・学校支援本部との調整 ・実施後の情報共有 ・招待状作成の指示

事例Ⅱ 4～6年生を対象とした週一回の朝運動活動を元保護者やスポ少指導者に依頼する

＜副校長の役割＞ ・参加児童の申込票及び保険料の集約 ・天候に伴う実施可否の相談

- (3)分析、考察～課題の検討

[成果と課題]

- (1)成果 ・学校と学校支援本部との関わりや円滑な活動を実現するための副校長の役割の明確化
・他校の実践を共有することによる自校での活動の充実
(2)課題 ①目的の共通理解 ②外部人材確保の工夫 ③学校、地域、行政の連携

○質疑及び協議

学校・地域・行政の連携は、できる範囲で行うことが大切。手を広げすぎないこと。そしてそれぞれの立場で話し合うことが第一歩となる。話し合うことで目的が共有され、目標に向かう力が醸成される。

第3分科会「教育環境整備に関する課題」

(報告者) 松江市教頭会所属

「地域の力を生かす学校環境づくり」 ―社会に開かれた教育課程の実現を目指して―

[提言者]富山県射水市教頭会

○発表の概要

[研究のねらい]

これまでの学校と地域との連携で得られたことを明らかにするとともに、学校運営協議会を組織することで始まった新たな取組の成果と課題を検証し、社会に開かれた教育課程の実現に向けて教頭が担うべき役割を探る。

[研究の概要]

(1)地域人材の活用 ①学習支援 ②安全確保 ③学校環境整備 ④防災教育

(2)教頭の役割 ①学校支援コーディネーターとの関わり ②市教育委員会との関わり

[成果と課題]

(1)成果 学校で地域の方とふれあう機会が増えたことで、児童生徒が地域の行事等に参加するようになり、地域のよさを実感できるようになった。地域の方を講師に迎えることで、児童生徒は専門的な知識や高度な技術にふれることができ、学習意欲の向上につながった。学校に関わる人や組織が増加し、児童生徒を地域全体で支えるという意識が高まった。

(2)課題 地域の高齢化により、継続が困難になった活動も見られる。ボランティアが集まりにくい地域もあり、新たな人材の発掘と学校への連携強化が課題となっている。学校支援コーディネーターや教頭が中心になりがちで、特定の人物に依存しない組織の構築が必要である。

[各グループ協議・助言者から]

多くの学校がボランティアを求めているため、小中学校間での人材確保が課題となっている。PTA活動が減少傾向にある現状を踏まえ、保護者を地域のボランティアとして巻き込み、持続可能な取組とすることが重要である。今後は、学校運営協議会の設置、コミュニティ・スクール化がさらに進んでいく中で、副校長・教頭が中心となり、こうした取り組みをさらに広げるための仕組づくりを推進していくことが求められる。

「地域の力を生かした教育活動の充実を目指して」 ―学校支援本部とのさらなる協働に向けての副校長の役割―

[提言者] 東京都杉並区副校長会

○発表の概要

[研究のねらい]

学校と学校支援本部の活動と関係についての課題を明らかにし、地域の力を生かした教育活動の充実を図るため、地域の主体性が発揮された活動を共有すること、課題を明らかにし、それを解決するための副校長の関わりについて検討する。

[研究の概要]

(1)現状把握 特徴的な活動・関わり(事例1 朝活動の見守り、事例2 朝運動の指導等)

(2)分析・考察～課題の検討 ①目的の共通理解②外部人材を確保するための工夫③学校、地域、行政の連携

[成果と課題]

(1)成果 他校の取組を共有することで、学校と学校支援本部のとの関わり方、担当教員の役割、打ち合わせの設定など活動を円滑に進めるための副校長の役割を知ることができた。

(2)課題 ①目的の共通理解を図るため、学校内に活動支援の部屋を設けるなど、環境整備をより進める必要がある。②外部人材確保のため、保護者や卒業生を地域の一員として捉え、人材の裾野を広げる必要がある。③学校、地域、行政がより一層連携を深める必要がある。

[各グループ協議・助言者から]

地域の状況は様々であり、地域の方の参加方法についても試行錯誤している段階である。学校支援本部のような組織を設置し、取組を継続できる仕組みを作ることが副校長・教頭の重要な役割である。ただし、副校長・教頭が主導すぎるのではなく、「その人がいなくても自走できる仕組みづくり」を推進していくことがもとめられる。